

4 上野焼「子ども作陶教室」 百年の伝統を小さな手で体験

7月13日に中央公民館で町子ども会育成連絡協議会主催の上野焼「子ども作陶教室」が行われました。63人の小中学生が上野焼協同組合の陶芸家7人にアドバイスをを受けながら、「ひも作り」と呼ばれる陶芸技法でカップや皿などを作陶。参加した子どもたちは、心を込めて作ったオリジナルの作品に目を輝かせ、焼き上がりを受け取る9月を心待ちにしていました。



↑ 陶芸のプロから丁寧な指導を受け、真剣な表情で作陶に取り組む参加者たち。

↓ 明るい社会の実現を目指して、地域住民に理解と協力を呼びかけた保護司たち。



地域第64回「社会を明るくする運動」 のチカラで犯罪のない社会の実現を

7月15日、田川地区保護司や町職員など30人による「社会を明るくする運動」の街頭啓発が行われました。この運動は、犯罪や非行のない明るい社会の実現に向けた全国的な取り組みです。保護司たちは、罪を償い立ち直ろうと決意した人を社会で受け入れていくことや、犯罪や非行をする人を生み出さない家庭や地域づくりの大切さを住民に訴えました。

差別7月の同和問題啓発強調月間を町民へアピール のないまちづくりにむけて

同和問題の正しい理解と解決を訴え、町長をはじめ約40人が町内5か所での街頭啓発や町内32社への企業訪問を7月2日に行いました。この活動は「同和問題啓発強調月間」の一環で、町民一人ひとりに啓発チラシとタオルを配布。住民や行政が力を合わせ、今なお残る同和問題への意識向上と、期間中に行われる啓発行事への参加を呼びかけました。



↑ 一日も早い同和問題の解決と人権尊重を訴え、町内で街頭啓発を行いました。

↓ 7月14日に町長室を訪問し、受賞を報告した市場小の5・6年生の児童代表たち。



交通安全第52回こどもの交通安全大会 への取り組みで最優秀賞

7月5日、福岡市で行われた「こどもの交通安全大会」で、市場小が最優秀賞にあたる「交通安全運動実践最優秀校」に選ばれました。これは児童が主体となり、教師やPTAと協力して分団登校などの交通安全活動に取り組んだことが評価されての受賞です。代表の児童は「この賞を機会に、さらに交通安全活動に力を入れて頑張ります」と、意気込みを語りました。

↓ 歓迎式典で催された獅子舞。日本の文化を間近で見た韓国の子もたちから、拍手と歓声があがりました。



2014年日韓交流事業 言葉の壁越えて心通い合う

7月12日から2泊3日の日程で、日韓交流事業の訪問団受け入れが行われ、日本と韓国の子もたちが国境を越えて親睦を深めました。この事業は上野焼開祖・尊楷ゆかりの地である韓国の泗川市との交流が目的で、東城初等学校の22人と、町の小学生20人が参加。市場小での歓迎式典を行った後、宿泊地であるふれあい塾でのバーベキューや、上野焼見学などを通して友情を深めました。最終日には上野小でお別れ会が催され、別れを惜しみながらも、10月に予定されている泗川市での再会を約束し合いました。

同和問題啓発強調月間講演会 自分を変え、他人との違いを受け入れる

7月24日、福智町人権講演会が地域交流センターで行われました。講師のダニーロ・ツヨシさんは、日本人とブラジル人を親に持ち、11歳で日本に移住し2か国で生活した経験をもとに、「他人との違いは対立の対象ではなく、視点を変えれば学びの対象になる」と熱弁。アフリカ民族打楽器・ジャンベ奏者のダニーロさんは、熱意がこもった演奏でも来場者の胸を打ちました。



↑ 時に激しく、時に優しく。独特のリズムでジャンベを披露したダニーロさん。

↓ 力を合わせて、自分の腕よりも太い木材を炭焼き窯に敷き詰めていく児童たち。



炭作りから学ぶ“もったいない”の精神 炭焼き体験

炭焼き体験の窯入れが7月3日に行われ、弁城小6年生が参加しました。新免真人さん(弁城)が指導したこの取り組みは、伐採などで不要になった木で炭を作る環境学習の一環。15日には窯出しが行われ、児童たちは真っ黒になりながら、木炭約200kgを窯から取り出しました。廃材に新しい使い道を吹き込んだ児童たちは、この体験からリサイクルの大切さを学びました。